

# 木村兼葭堂の交友と知識情報

有坂道子

The Network of Acquaintances and Intellectual Information of Kimura Kenkado

はじめに

- ① 地域蘭学における大坂
- ② 木村兼葭堂
- ③ 兼葭堂と大槻玄沢
- ④ 兼葭堂と宇田川玄隨

結びに

## 【語文翻訳】

地域蘭学の展開を考えるにあたり、これまでの在村蘭学研究において都市域を扱った研究が少なかつた点をふまえ、本稿では、江戸時代中・後期に大坂で活躍した町人知識人である木村兼葭堂を取り上げ、蘭学者との交友内容を明らかにすることを通じて、いわゆる「蘭学者」ではない兼葭堂の蘭学との関わり方について考察した。

兼葭堂は、造り酒屋を営む商人であったが、文人、蔵書家、文物収集家、本草・博物学者として著名で、きわめて広い交友関係を持っており、交遊の様子は彼の残した日記や取り交わされた書状から読みとることができる。兼葭堂は当時の大坂を代表する知識人であるとともに、多方面にわたる活動の中に蘭学知識の影響が見られ、蘭学者や蘭学関係者とも交流している。ここでは、大槻玄沢と宇田川玄隨が兼葭堂に宛て出した書状を素材に、彼らの間でどのような知識や情報が求められたのか、互いをどのように位置づけていたのかについて検討を加えた。

兼葭堂は蘭学者としてではなく、博物学者としての求知心を持つて蘭学的知識を積極的に吸収しようとした。蘭学者の側も、兼葭堂のような蘭学に対する学問的好奇心を持つ人々から影響を受けていたと言える。それぞれが得意とする分野の知識を交換することで、知的の刺激を受けていたのである。

兼葭堂と同様に、蘭学知識や情報を求める人々は多く存在しており、彼らを含んで蘭学の広がりを考えしていく必要がある。